

エコロジカル・ネットワークの取り組みについて

【目次】

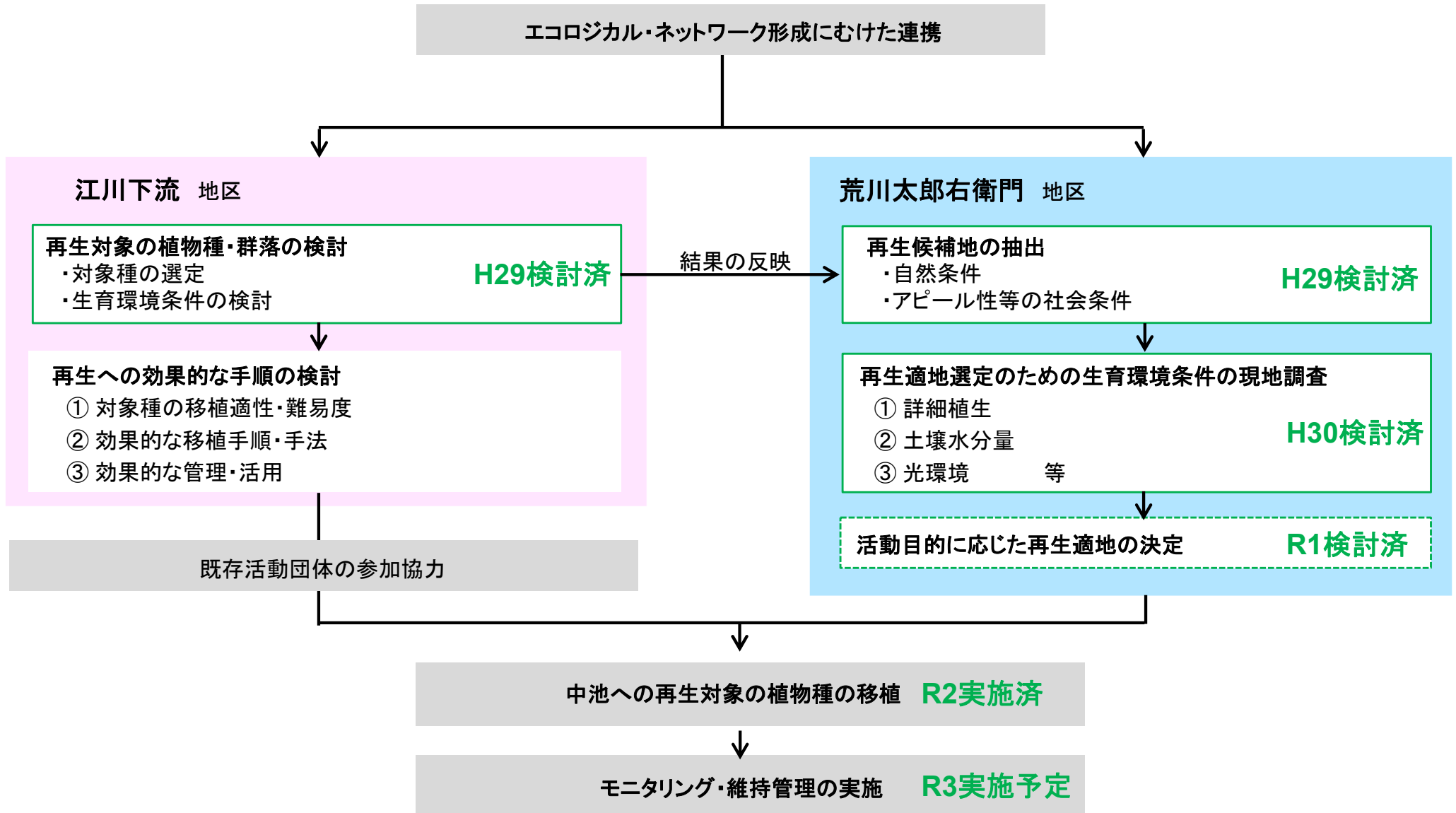
1. 活動の経緯と予定	P2
2. 再生対象の植物種・群落の検討	P3
3. 再生対象の植物種の概要	P4
4. サクラソウ群落の移植位置	P5
5. サクラソウ群落の移植状況(2月24日現在)	P6
6. サクラソウ群落のモニタリング結果(4月14日現在)	P7
7. 今後のサクラソウ群落の植生管理(案)について	P8

【ご注意】

本資料は、生態系保護の観点から生物の位置に関わる情報などは非表示としています。
ご了承下さい。

1. 活動の経緯と予定

- 目的 ① 自然再生事業地の効果的なアピールを図るために「サクラソウ群落」の再生を目標とした活動を推進する
② 「江川下流地区」との連携によるエコロジカル・ネットワーク形成に向けた活動を推進する



2. 再生対象の植物種・群落の検討

●再生対象の植物種の選定にあたっては、「サクラソウ群落」の構成種を基本としながら、荒川太郎右衛門地区のかつての原野植生を念頭に、希少性やアピール性にも留意しつつ、以下の計15種の候補種の選定を行いました。生育環境としては、水域～湿地を中心に、一部は草地環境の種も含まれています。【検討済み】

●希少種も多く含まれることから、再生対象種ごとに、効果的な育成や移植の手順について検討を進めていきます。

●2月24日に赤枠内の7種を中池サクラソウ移植地に移植しました。

No.	科名	種名	生育環境			花の色	環境省 レッド	埼玉県 レッド
			水域	湿地	草地			
1	スイレン	コウホネ	●			黄		NT
2	ミツガシワ	アサザ	●			黄	NT	VU
3	サクラソウ	ヌマトラノオ		●		白		NT
4	オトギリソウ	トモエソウ		●		黄		VU
5	トウダイグサ	ノウルシ		●		黄	NT	VU
6	キク	ホソバオグルマ		●		黄	VU	EN
7	サクラソウ	サクラソウ		●		ピンク	NT	CR
8	キョウチクトウ	チョウジソウ		●		淡い紫	NT	EN
9	アヤメ	ノハナショウブ		●		紫・紺		VU
10	ラン	ミズチドリ		●		白		CR
11	キキョウ	バアソブ		●		白と紫	VU	EN
12	ユリ	コオニユリ		●	●	赤		NT
13	ナデシコ	カワラナデシコ			●	ピンク		VU
14	サクラソウ	ノジトラノオ			●	白	VU	EN
15	ヒガンバナ	キツネノカミソリ			●	赤		NT

□:R2年度移植対象

・環境省レッド・・・第4次環境省レッドリスト植物ⅠおよびⅡ（環境省、2019）への掲載状況

・埼玉県レッド・・・再改訂・埼玉県レッドリスト2011植物編（埼玉県、2011）の掲載状況

<レッドデータブックのカテゴリー区分>

CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧

3. 再生対象の植物種の概要

□:R2年度移植対象

水域	湿地			草地
 <p>【1】 コウホネ 【県：準絶滅危惧】 水路、池沼などに生える多年草</p>	 <p>【3】 ヌマトラノオ 【県：準絶滅危惧】 ヨシ原、河辺、畔など湿地に生育する多年草</p>	 <p>【4】 トモエソウ 【県：絶滅危惧Ⅱ類】 湿地、原野に生える多年草</p>	 <p>【5】 ノウルシ 【国：準絶滅危惧、県：絶滅危惧Ⅱ類】 湿地や原野に生える春型の多年草</p>	 <p>【13】 カワラナデシコ 【県：絶滅危惧Ⅱ類】 砂礫河原や貧栄養な草原に生育する多年草</p>
 <p>【2】 アサザ 【国：準絶滅危惧、県：絶滅危惧Ⅱ類】 湖沼やため池、緩い流れに生育する浮葉植物</p>	 <p>【6】 ホソバオグルマ 【国：絶滅危惧Ⅱ類、県：絶滅危惧ⅠB類】 自然性の高い湿地に生育する多年草</p>	 <p>【7】 サクラソウ 【国：準絶滅危惧、県：絶滅危惧ⅠA類】 湿地や原野に生える春型の多年草</p>	 <p>【8】 チョウジソウ 【国：準絶滅危惧、県：絶滅危惧ⅠB類】 河畔林、オギ原などに生育する多年草</p>	 <p>【14】 ノジトラノオ 【国：絶滅危惧Ⅱ類、県：絶滅危惧ⅠB類】 土手、やや湿り気のある草地などに生育する多年草</p>
 <p>【9】 ノハナショウブ 【県：絶滅危惧Ⅱ類】 湿った草原や湿原に生える多年草</p>	 <p>【10】 ミズチドリ 【県：絶滅危惧ⅠA類】 湿性草原に生育する多年草</p>	 <p>【11】 バアソブ 【国：絶滅危惧Ⅱ類、県：絶滅危惧ⅠB類】 湿地や原野に生えるつる性の多年草</p>	 <p>【12】 コオニユリ 【県：準絶滅危惧】 湿った草原に生える多年草</p>	 <p>【15】 キツネノカミソリ 【県：準絶滅危惧】 土手や樹林内などに生育する多年草</p>

4. サクラソウ群落の移植位置

- 荒川流域のエコロジカル・ネットワーク形成において自然環境の核となる自然再生地の湿地環境を保全・再生する取り組みとして、中池の③中池サクラソウ移植地（下赤枠）において、サクラソウ群落の植物を移植しました。

①中池広場

中池広場は、オオブタクサ等の外来種の再繁茂が見られるため、「在来種による草地環境の形成」を促し、ギンイチモンジセセリなど乾性草地に生息する希少な生きものが繁殖する場とする。

②中池広場対岸

中池広場対岸は、オギ群落周辺にオオブタクサ等の外来種の再繁茂が見られるため、「オギ原の形成」を促し、ホンドカヤネズミやオオヨシキリなどの生息空間とする。



③中池サクラソウ移植地

中池サクラソウ移植地は、大型草本が優占種となっている中池湿地を「サクラソウ群落の形成」を促す。また、浅い水辺などに生息するトウキョウダルマガエルなど生息環境を維持する。

④中池奥広場

水際のシンジュ伐採跡地は、1) 水辺へのアクセスを活かし低茎草地（河原草地）の育成、また、2) クヌギ林などの河畔林を育成し、オオムラサキなどの生息環境を維持する。

5. サクラソウ群落の移植状況（2月24日現在）

非表示

6. サクラソウ群落のモニタリング結果（4月14日現在）

非表示

7. 今後のサクラソウ群落の植生管理（案）について

- 太郎右衛門自然再生地でのサクラソウ群落の再生に向けて、今年度も川島町立つばさ北小学校に参加いただいています。
 - 第41回維持管理・環境管理委員会において、委員より「サクラソウ群落の再生は4-5年間程度の継続が必要」という意見が出ました。
 - エコロジカルネットワーク化を継続的に推進するためには、多様な主体と連携・協働が欠かせません。
- ⇒上記の状況を受け、

- ① サクラソウ群落の再生による自然再生地の魅力の向上と発信を通じて、新たな参画主体を確保することが求められます。
- ② 連携・協働先に株の育苗ノウハウを提供するため、わかりやすい内容の株の育苗マニュアルの検討が求められます。

		2021年度	2022年度	環境整備事業終了	2023年度	2024年度	2025年度	
①モニタリング調査		協議会で実施	協議会で実施		協議会及び連携・協働（市民・学校・企業・セミプロ等）の検討			
②外来植物の駆除		協議会で実施						
③除草		協議会で実施	協議会で実施					
④株の調達・管理	④-1 株の採集	事務局で実施						
	④-2 種子の採集・播種	事務局で実施						
	④-3 株の育苗	事務局で実施			連携・協働(例：桶川西高校・つばさ北小学校、企業等)の試行・検討			
⑤株の育苗マニュアルの検討		事務局で実施						

- ①モニタリング調査 : 生育株数及び開花株数の調査を実施します。毎年、植物の開花時期（4～8月）に実施します。
- ②外来植物の駆除 : 移植地周辺の外来植物の駆除を4～10月の間、月1回程度の頻度で実施します。
- ③除草 : 翌春の日照条件確保のため、地上部が枯れた後の地表面の除草を11月～1月の間、月1回程度の頻度で実施します。
- ④-1 株の採集・移植 : 荒川流域の株採集の許可が得られれば、株の採集と移植を実施します。
- ④-2 種子の採集・播種 : 荒川流域の株から種子の許可が得られれば、種子の採集を行います。イベント等での播種等について検討します。
- ④-3 株の育苗 : ④-1・2で得られた株の育苗を行います。育てた株はイベント等での移植について検討します。
- ⑤育苗マニュアルの作成 : 2023年度から連携・協働先で、株の育苗を実施してもらうことを前提とした株の育苗マニュアルを検討します。